
いっそ総てが消えたらいいのに。

和歌雅杜的

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いつそ総てが消えたらいいのに。

【Nコード】

N1069L

【作者名】

和歌雅杜的

【あらすじ】

人生は麻薬に似ている。

一瞬の快楽と、それにつきまとう絶望。

一時の感情で動いてはいけません。

ざあざあ。

ざあざあ。

どうしようもない喪失感。

行き場をなくした感情たちが、空から降ってくるみたい。

ざあざあ。

ざあざあ。

そういえば、小説を読むときは情景描写に注意すると主人公の気持ちに分かるって聞いたことがある。

その方法は今の自分にも有効みたいだ。

雨。それに比例して、心。

ざあざあ。

いつそ雨みたいに一瞬で土に吸い込まれるなら、それほど楽なことはない。

考える暇すらないほどの速さで、生まれて、消えて。

喜ぶことも悲しむこともしなくていいなんて、なんて素晴らしいんだろう。

だってそうだろう？

人間。

こんな複雑な構造をした生き物。

それが寄り集まって平穩無事に生きていくなんて到底無理な話なんだ。

喜ぶから、嫌いになる。

悲しむから、辛くなる。

感情なんてもの、結局は全て絶望に繋がるようにできてるんだよ。

ざあざあ。

だって、ほら。

ずっと前からこうすることを望んでいたはずなのに、それを達成したこの瞬間。

この虚無感。

さあさあ。

やりたいことをやったって行き着く先がこんな場所なら、感情なん

て持たなければいい。

さあさあ。

雨粒が地面に消えていく。

落ちて、堕ちて。

……。

嗚呼、やっぱり小説と人生は別物なんだね。

雲の隙間から陽が覗いて、この部屋を照らした。

その光の中心、血溜まりの中に佇む少年は。

もう動かない家族を見つめて、一人泣いていた。

さあさあ。

さあさあ。

まだ雨は止まない。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1069/>

いっそ総てが消えたらいいのに。

2011年1月16日06時02分発行